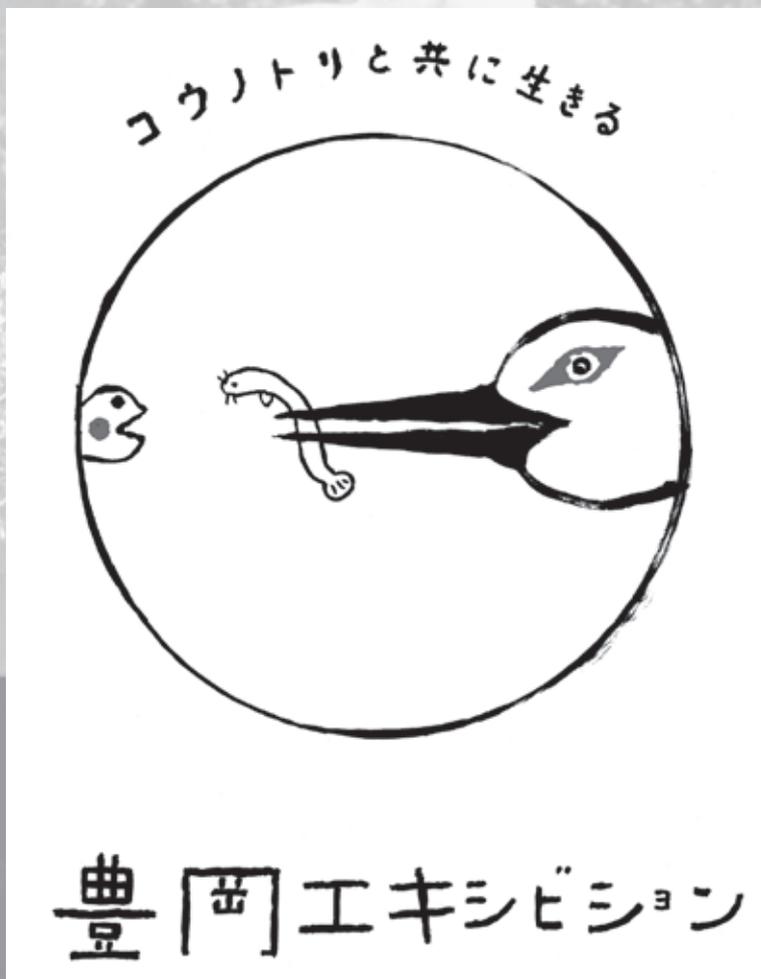


なくした大切なものを取り戻す

そして守り、育て、伝える



寺門孝之 作

左にいる生き物は、人を含む生きものすべてのシンボル。コウノトリ、コウノトリが食べるドジョウ、すべての生きものが、1つの宇宙を現す円環の中で一直線上に並び、親密な関係があることを表しています。

▲豊岡エキシビション

市では、11月10日、東京都港区六本木で情報発信イベント「豊岡エキシビション」(展覧会)を初めて開催しました。テーマは、「なくした大切なものを取り戻す。そして守り、育て、伝える」としました。

これは、豊岡固有の自然や歴史、伝統、文化に根ざしたまちづくりや、コウノトリをシンボルとした環境都市づくりを表したものです。

エキシビションでは、テレビ局、新聞・雑誌社、広告代理店、百貨店、旅行業者などを招待して、豊岡の魅力や先進的な取組みを紹介するため、情報発信の拠点となっている東京で開催し、当日は103人の参加がありました。2部構成で豊岡の生き様や魅力を訴え、参加者からは、豊岡に興味を持ったという声が多くありました。

《問合せ》秘書広報課情報戦
略係 ☎23-111111

東京で開催

豊岡のご紹介

第一部「豊岡を語る」

●豊岡の紹介



▲豊岡を紹介する中貝市長

中貝市長が「コウノトリ悠然と舞うふるさと」をテーマに、豊岡市のコウノトリ野生復帰のこれまでの取組みや、固有の自然、歴史、伝統、文化について紹介しました。

●豊岡お国話

コウノトリの野生復帰と環境創造型農業、コウノトリ育むお米の生産拡大の取組み、歴史と伝統に培われた城崎温泉の新たな取組みについて、パネルディスカッションを行いました。

コメンテーターには、俳優で、コウノトリファンクラブ会長の柳生博さん、パネリストにはコウノトリ育むお米生産部会長の暇



▲豊岡お国話をするコメンテーターとパネリストら

悦喜さん、兵庫県環境創造型農業専門員の西村いつきさん、城崎温泉旅館協同組合理事の高宮浩之さんを迎え、中貝市長をコーディネーターとして、これまでの取組みなどについて、熱意やエピソードを語っていただきました。

コウノトリが舞い降りる場所とコウノトリ育む農法の田んぼの位置がぴたりと一致することや、ICカードを利用した「ゆかたクレジット」の実証実験などが紹介されると、会場からうなずきの声が出ていました。

第二部「豊岡のチャレンジ」

さまざまな取組みや特産品について詳しく説明し、手に取り味わっていただくため、17のブースを隣接会場に設置しました。

コウノトリの野生復帰、育む農法、生物多様性の取組みについて各ブースで紹介し、城崎温泉、城下町出石・出石永楽館の観光地のブースでは、各観光協会の皆さんが来場者に説明しました。

味を伝えるブースでは、コウノトリ育むお米、津居山かに、但馬牛、出石皿そば、育むお米で作ったお酒などの試食(飲)を行い、多くの人でにぎわいました。

豊岡の卓越した技術を紹介するブースでは、地域ブランド「豊岡靱」、iFデザイン賞受賞カバン、世界的に希少なファイバー製トランク、ハンガー界の一流ブランドを紹介し、出展者の熱心な話に参加者は耳を傾けていました。世界を代表する冒険家「植村直己」さんを紹介するブースも設け、会場は終始にぎわいました。

小さな世界都市を目指して

豊岡では、一度自然界から姿を消した野生動物を再び自然界に戻すという世界にも例を見ない取組みを行っています。

日本の温泉情緒が色濃く残る城崎温泉、江戸時代のた

出石など日本でも数少ない街並みがあります。豊岡の存在、魅力、豊岡が頑張っていることを多くの人に知ってもらうことが必要です。今後も東京をターゲットに「小さな世界都市」を目指して情報発信に努めます。



▲出石皿そばの試食



▲豊岡の位置を紹介する市職員



▲コウノトリ育むお米で作ったお酒の試飲



▲豊岡の卓越した技術を紹介